

# Daily Report (号外)

## ～FOMCの結果について～

### 概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は、12月9-10日に開催したFOMC(米連邦公開市場委員会)において、2025年9月、10月に続き3会合連続で、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を0.25%引下げ、3.50%-3.75%とすることを決定しました(賛成9名、反対3名)。なお、今回の採決では、シカゴ連銀のグールズビー総裁とカンザスシティ連銀のシュミッド総裁が金利の据え置きを主張して反対票を投じた一方、ミラン理事は0.50%の利下げを主張して反対票を投じました。

FOMC後に発表された声明文では、雇用に関して前回の「失業率は低いままである」との記述から、「失業率は9月にかけて緩やかに上昇した」との表現へ修正し、労働市場の減速を示しました。また、フォワードガイダンスでは、今後の政策調整について「追加調整の程度とタイミング」を検討するとし、政策金利が中立金利に近づくにつれ利下げペースを鈍化させるという、景気のソフトランディングを意識した基本シナリオが示唆されました。

また、準備預金残高が十分な水準まで減少したと判断し、準備預金の供給維持のため、短期国債の購入を開始することを決定しました。

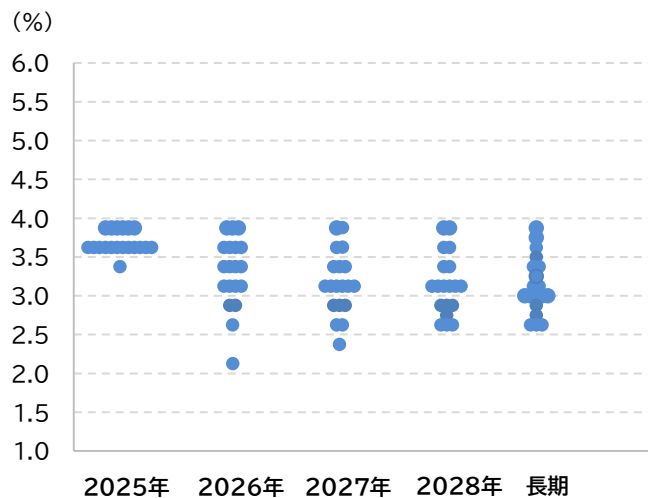
FOMC後のパウエル議長の記者会見では、「雇用には著しい下振れリスクが存在する」と発言し、雇用統計が過大評価されている可能性に言及しました。また、インフレについては、「関税の影響が一巡すればインフレ率は2%に向けて再び低下するだろう」と述べました。政策金利に関しては、「現在は良い位置にある」と述べ、今後の利下げはデータ次第で慎重に行う姿勢を示唆しました。

図表1 FOMC参加者の経済見通し  
(中央値ベース)

	2025年	2026年	2027年	2028年	長期見通し
GDP成長率	1.7%	2.3%	2.0%	1.9%	1.8%
(前回9月)	1.6%	1.8%	1.9%	1.8%	1.8%
失業率	4.5%	4.4%	4.2%	4.2%	4.2%
(前回9月)	4.5%	4.4%	4.3%	4.2%	4.2%
PCEデフレータ	2.9%	2.4%	2.1%	2.0%	2.0%
(前回9月)	3.0%	2.6%	2.1%	2.0%	2.0%
コアPCEデフレータ	3.0%	2.5%	2.1%	2.0%	
(前回9月)	3.1%	2.6%	2.1%	2.0%	
FFレート(中央値)	3.6%	3.4%	3.1%	3.1%	3.0%
(前回9月)	3.6%	3.4%	3.1%	3.1%	3.0%

出所:FRB

図表2 FOMC参加者のFF金利予測  
(ドットチャート)



出所:FRBより弊社作成

# Daily Report(号外)

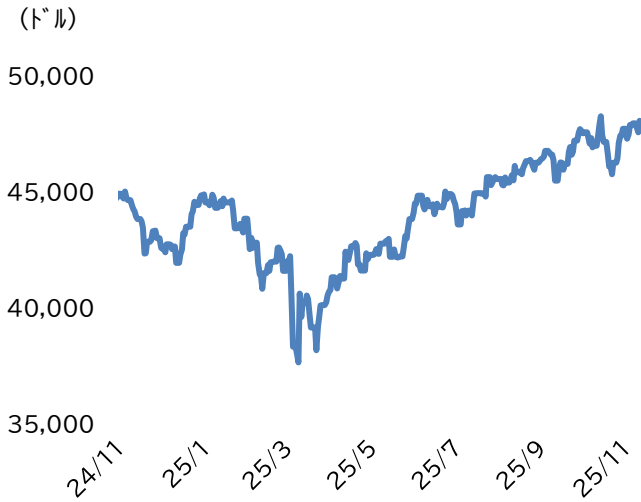
## 市場の反応(米国市場)

株式市場では、FOMCで3会合連続の利下げが決定されたことや、パウエル議長が関税によるインフレ圧力が一時的であると述べたことが好感され、S&P500種株価指数は最高値付近まで上昇しました。

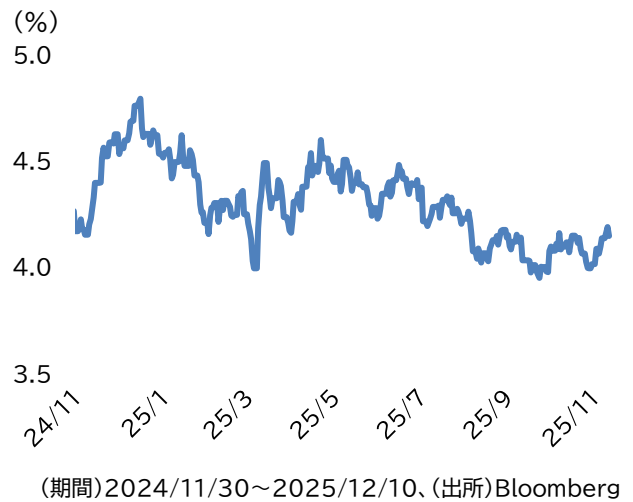
債券市場では、FRBによる短期国債購入決定が好感され、米国10年国債利回りは0.04%下落(価格は上昇)し、4.15%となりました。

為替市場では、米金利低下に伴いドル売りが優勢となり、1ドル=155円程度まで円高・ドル安が進みました。

### NYダウの推移



### 米10年国債利回りの推移



(期間)2024/11/30~2025/12/10、(出所)Bloomberg

## 評価及び今後の見通し

今回示された内容は、市場が予想していたほどタカ派的な利下げを示唆する内容ではなかったものの、引続きタカ派的な内容とハト派的な内容が混在するものとなりました。最新のドットチャートでは、2026年に年1回の追加利下げが中央値となりましたが、参加者12名のうち4名は金利据え置きの見通し、4名は年1回の追加利下げ見通し、残る4名は年2回の追加利下げを想定しており、見通しは三者三様に分かれています。

また、今回決定された短期国債の購入は、大規模な金融緩和ではないものの、金融市場の流動性を確保する市場安定化策になり得ると評価しています。

当面は、2026年5月に任期終了を迎えるパウエル議長の後任選びに市場の注目が集まり、後任人事に関するニュースが市場に影響を与える相場展開を想定しています。

## (ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
2025/12/18	ECB理事会
2025/12/18~19	日銀金融政策決定会合
2026/1/27~28	FOMC

出所:Bloomberg

運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また、シミュレーション等(前提は資料参照)については結果を確約するものではありません。